

「つどい」のさいきん



東北沢つどいの家（生活介護）

昨年11月に宿泊旅行に行き、お台場科学未来館・東京スカイツリーと、都内名所を皆で観光しました。久々に再会するボランティアさんや、新しいボランティアさんとの出会いなど、観光だけでなく、人同士の交流も楽しめました。



玉堤つどいの家（生活介護）

ミュージックセラピストによる音楽療法という活動があります。音楽を聴く「受動的音楽療法」、歌ったり楽器を演奏する「能動的音楽療法」により利用者様の心身に好影響を及ぼしてくれています。



なかまっち（自立体験ホーム）

なかまっち自立体験室一般入居を利用されていた3名が、無事に地域での自立生活に移られ退所しました。現在、新たな利用者さんの一般入居に向けて、受け入れ準備をしています。新しい方々との出会いや体験を楽しみにしております。



グループホームきぬた（重度身体障害者グループホーム）

来年度に向けて何をしようかと模索をしています。入居者の状況の変化に応じた課題にも向き合いつつ、みんなの声を上手に引き出して、楽しいことを企画したい令和7年です。



ぽーとたまがわ・なかまっち相談室（地域障害者相談支援センター）

職員の指導のもと、クラフトバンドで小物入れづくりを実施しました。参加者は真剣に取り組み、15時過ぎによりやく完成。最後はコーヒーを飲みながら、ほっと一息つきました。



法人つどい事務局

年度末に向けて、事業計画や予算の策定に加え、諸規定の整備や中長期計画の実施に向けた準備など積み重なった課題を掻き分けています。先が見えた頃には総会でしょうか…

理事長便り

「一緒にやってみませんか？」

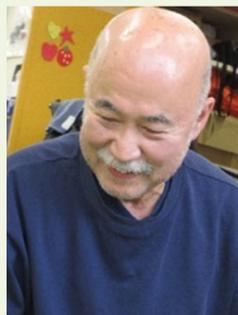
我が子を含む重度障害児の為にデイサービスを自力で立ち上げた或るお母さんが、自分は「障害」を「障壁」と呼ぶという話を聞いた時、まさにその通りだと思いました。

日々医療や福祉に限られた領域を掘り下げることにのみ注力し、障害と人格を一体化して見えてしまう様子を見てきた私は「障害者という人はいない」「障害の向こうに人が居ることを忘れない」と周囲の人達に言ってきました。

重要なポイントは本人の言い分を聞くことですが、例え傾聴したとしても言葉で表せない場合もあれば心を開かない場合もあり、本音を聞き出すのは容易ではありません。

自立とは大勢の人に支えられて生きること、と言われる。特に障壁の向こうに居る人達は生きて行く為に人の力を必要とします。でも何かを頼もうとして「そんな事で人を呼ばないで！」と言われないか、という不安は常に付きまといます。

時間を掛けて対話を積み重ねて少しずつ判ってきたことは、そこには「膨大な遠慮」があるということでした。その事に思い至らずに「頑張って！」とか「もっと自分から発信すれば？」などと言えるだろうか、と自問する今日この頃です。様々な遠慮や気兼ねを乗り越える道筋を助けるとしたら、それは圧力ではなく、「一緒にやってみませんか？」という提案ではないかと思えます。



特定非営利活動法人つどい 理事長 原泰夫

つどいサポーター(会員) 募集中 です

つどいは、誰もが障害のあるなしに関わらず、様々な人と関わりながら豊かに生活できる地域社会作りを目指しています。

活動を支えるサポーターとして、共にビジョン実現を目指す仲間になりませんか？ご興味を持たれた方は右記よりお申し込みください！

— 年会費 —

正会員：2,000円/年 法人総会等を通して、運営に参画して頂ける方（議決権有り）
賛助会員：1,000円/年 法人の活動に賛同し、運営を支援して頂ける方（議決権無し）



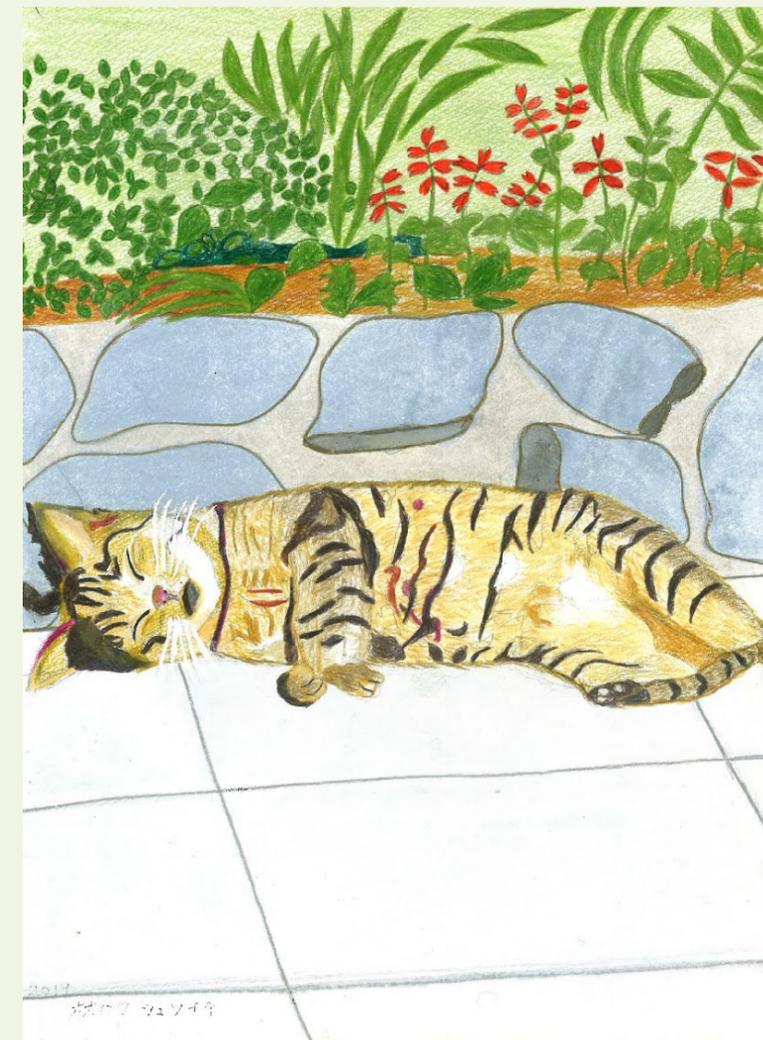
<https://tsudoi.tokyo>

つどいウェブサイトまたは法人事務局にご連絡ください

Tel. 070-1392-9524

誰もが自分らしく 地域で暮らしていくために

つどいぶらす



絵：ぽーとたまがわ 大川純一さん

特集

つどいのいま 共に生きる社会を目指して

2025 SPRING

<https://tsudoi.tokyo>

共に生きる、社会を目指して

NPO法人つどいは、法人理念として「誰もが自分らしく地域で暮らしていける社会をつくるために…」という一文を掲げています。

自分らしく地域で暮らしていくという事は、地域コミュニティと密接につながるという事になります。

今回は、法人内各事業所やそこで過ごす利用者さんが、共に生きる地域社会の実現に向けて、それぞれの地域コミュニティとどのようなつながりを持って、関り、関係を育んでいるかを特集します。

なかまっち

「地域の憩いの場」

なかまっちのご近所には、昭和32年創業の「牛乳屋さん」があり、なかまっちの利用者さんが頻りに利用されています。

お店の方からはご理解を頂いており、いつも利用者さんが買い物する姿を温かく見守って下さっています。ゆっくり買い物もできますし、自販機も置いてあるので、とても有難い存在です。

そして、娘さんはなかまっちで調理担当スタッフとしても貢献して下さっています。

これからも地域との繋がりを大切にしていきたいと思えます。



「牛乳屋さん」こと、小沢牛乳店

東北沢つどいの家

「レザークラフトが生んだ、地域とのご縁」

北沢税務署管轄内の優良申告会「北沢優申会」様から毎年ご寄付を頂いているご縁で、北沢税務署から中学生の税の作文コンクールの記念品として、当事業所のレザークラフト製作品である、印鑑ケースの受注を頂きました。

利用者様も大事に使ってくれるといいなあという思いを込めて、張り切って製作に取り組んでいました。

ご寄付を頂くだけでなく、自主生産品を通して地域の皆様と新しい繋がりが出来ました。



レザークラフト制作中の様子と完成品

グループホームきぬた

「地域で当たり前暮らす」

グループホームきぬたは地域との連携を求めて、自治会の活動に加わったり、近隣の団体と交流イベントを企画したりしてきました。

地域の一員として、「支えられる」だけではなく、「できる事は協力する」という姿勢で地域の行事にも協力してきたことで、グループホームの存在が少しずつ浸透してきています。

「当たり前暮らす」ということが、地域社会と繋がっていくことになっています。



地域行事「ぐるぐるきぬた」にて

ぽーとたまがわ・なかまっち相談室

「地域で支え合う居場所作り」

ぽーとたまがわでは、障害のあるなしに関わらず、地域で支え合う「居場所づくり」に取り組んでいます。

ポッチャ交流会やカフェこみんでは、利用者さんと地域住民が交流を深める中で、利用者さんが会場の設営や準備、進行などに積極的に関わる姿も見られるようになりました。こうした活動を通じて、利用者さんたちの行動範囲も広がり、就労支援の場や地域のイベント、サロンに参加する機会も増えています。

今後も地域とのつながりを大切に、共に生きる社会を目指します。



「カフェこみん」での交流

玉堤つどいの家

「玉堤小学校との交流」

昨年の10月19日、当施設から徒歩で数分に位置する玉堤小学校で開催された『玉堤小フェスタ』に参加してきました。

日頃から当施設の前を登下校で往来する小学生に、福祉体験と称して手話をういて非言語コミュニケーションの実践や、車椅子体験を行いました。

今後、近所の小学生が車椅子を押してくれる日が来ることを、楽しみにしております。



地元の小学生向け福祉体験コーナー

職員インタビュー

この人達が、つどいのセンター！

このコーナーでは前号まで、新人職員の皆さんをメインにインタビューを行ってまいりました。今号からは、各事業所の「現場リーダー」として、日々、利用者支援と若手職員の指導に励まれている、職員経験豊かな皆さんを紹介していきます。長年にわたって当法人を支えて下さっているお二方、いつもお疲れ様です！



東北沢つどいの家
サービス管理責任者・Fさん

Q.支援で大切にしていることは？

A.

利用者さんが毎日元気に通所できているのは、ご家族、居宅サービス、相談支援、短期入所等様々な方々の支えがあって成り立っていると感じています。なので、利用者さんを支援することはすなわち支えてくれる方々も支援する事と考えており、困ったり悩んだ時に色々話ができる関係作りを心がけています。



なかまっち
主任生活相談員・Hさん

Q.支援で大切にしていることは？

A.

日常に潜んでいる『あ、なんかいいな』と思う場面を大切にしていきたいと思っています。そうなる為に、慣れてきたときに慢心せず、謙虚な気持ちや志を忘れないようにしたいものです。

座右の銘
継続は力なり

座右の銘
初心忘るべからず